

女性と仕事

3年葵組 I.H.

新聞記事で「女性管理職まだ6.2%」という記事を見つけました。今回は女性が働くことについて書こうと思います。

私の祖母が結婚する頃は、結婚後働く女性は少なく、女性は家事に専念することが当たり前の時代でした。さらに、子どもを産んだら仕事をやめるのが普通だったそうです。

祖母の勤めていた会社もやめるのが当然のような制度で、周囲からの反対もあったので、祖母は結婚するときに会社をやめました。

私の母が生まれた時には専業主婦として育児・家事に専念していました。

子どもの成長に合わせて、少しずつ仕事を始めました。

その仕事は、子どもの帰宅時間には家にいることができ、夏休みなどの長い休みには一緒に休める高校の非常勤講師でした。

下の子が高校生になるときに、専任教師になったそうです。しかし、仕事を続けるには周りの理解と協力が必要でした。

今は育児・家事をする男性も増えているので働く女性も増えています。今は昔よりは女性が働きやすいようになっていますが、それでも女性が働くのは大変だということが新聞記事を見てわかりました。

保育園なども多くなったり、安倍政権でも女性の活躍を支持する体制を整えると言っていますが、実際には女性が家事をするという考え方はまだ残っているし、家事をしながら仕事をしたいという女性の条件に合った仕事は少なく、実際には仕事をするというのは大変だと思います。

私の祖父は企業戦士で仕事ばかりだったので祖母は家事・育児をしながら仕事を続けていました。

祖母は、自分の好きなことが仕事になっていたのも、反対があっても大変でも仕事をしようと思っていたそうです。

そして、周りの人々も少し自分が犠牲になっても続けるための協力をしようと思ったので、続けられたそうです。

母は祖母が働いているとき、帰宅してもだれもいないのがさみしかったし、夕食の支度などの家事ができていないことを不満に思ったりもしたそうです。

母は今家事に専念しています。私の家では父は朝早く家をでて夜おそく帰ってくるので家事・育児のほとんどすべて母がやっています。母はちょうど良い自分の能力を生かせる仕事があれば仕事をしたいと考えているようです。

私が家に帰った時には母がいてくれた方が私も安心です。

もし母が仕事を始めたら、私は母の手伝いをしようと思っています。

子どもがいる女性が働くには必ず家族の協力がなければ働くことはできないということがわかりました。

私の母は祖母が働いていたときにさみしい思いをしたりしましたが、もしそのときに祖母がやりたかった仕事をやめたら今、後悔していたかもしれないし、母も自分のせいで祖母が好きだった仕事をやめたというのも嫌かもしれません。家事・育児と両立させながら仕事のできたのだから、祖母の選択はまちがっていなかったと思います。

私も将来、自分の気に入った仕事を見つけて楽しく仕事ができたらいいと思います。また、これから今よりももっと女性が働くことを受け入れる社会になればいいと思いました。